

## 令和4年度 西武学園文理中学校自己評価表

目指す学校像	地球規模の視点で自ら問題を発見し、解決できる生徒の育成	
重点目標	グローバルな視野と21世紀型スキルを培うために、学校教育活動全般を通じて①総合的な言語力の修得、②異文化理解の体得、③日本の伝統文化の理解、以上の3点について特に留意してその育成を図る。特に、日常生活面における指導の徹底を図り、自学自習の習慣の強化、情操の向上等により社会から信頼される人格の陶冶を目指す。	達成度 A ほぼ達成 (8割以上) B おおむね達成 (6割以上) C 変化の兆し (4割以上) D 不十分 (4割未満)

年度課題		年度評価		次年度への課題と改善策	
No.	課題	具体的目標	課題項目の達成状況		
1	教育活動	学力の向上	コロナ感染による学級閉鎖・学年閉鎖、個人の感染や濃厚接触者に対して、リモート授業を展開し学びの確保に努めた。また、S時限、確認テスト、補講などを行い、基礎学力の定着を図った。補習や英検対策ゼミ、学習サポートセンターとの連携を図り、放課後の時間の有効活用に努めた。	B	家庭学習時間が1時間未満の生徒が多く、家庭学習時間の確保が課題である。そのためには、興味・関心を高めるための授業力向上と躰きを早い段階でフォローする体制の強化を図る。また、補習や英検対策ゼミなど保護者にも伝え理解を求める。
			総合的な英語力(4技能)を習得させるため、日本人英語教師とALTによる習熟度別授業を展開させた。また、各教科タブレット端末を利用した授業に取り組み、生徒に効果的な教育の提供を図った。英検や漢検の受験を奨励し、中学3年生の7割ほどが英検準2級以上、漢検も3割ほどが準2級以上合格したが、目標の英検準2級以上8割には達成できなかった。	B	継続して検定試験や資格試験を積極的に受験させ、上位級を目指す指導をする。英検準2級以上の取得率8割以上を目指す。また、英語を話せるようになるだけでなく、英語で何を話すのかをGCPプログラムを使って取り組んでいく。
			学力推移調査を用い、各生徒に自分の学力水準を全国レベルで把握させた。また、進路指導部主導で分析を行い、学年・教科に目標数値と強化ポイントを指示し、学習指導に活かした。	B	進路指導部主導の分析により、系統的なデータ分析と個々の弱点を可視化できた。さらに、学年と教科が有効的に活用するように進路指導部が主導で改善していく。
			中学2年次から生徒各自が興味関心のあるテーマを選び、中学卒業時に提出する卒業論文の作成に取り組ませた。そこで体験的な活動や研究を中心に学習を展開するようにし、その過程や研究結果に関する成果物をiPadに記録させ、卒業論文として仕上げさせた。また、卒論の発表を学年および1・2年生にも聞かせることによって、プレゼンテーション能力の向上を図り、下級生には、卒論の指針を与えた。	A	次年度は1年生から取り組ませ、内容をさらに高いものになるよう指導していく。内部発表だけでなく外部コンクールなどに出席することにより、外部評価を受けて自己肯定感を上げていく。
		人間形成	クラブ活動では時間制限がある中で、県大会・全国大会に出場するクラブもあり、生徒の努力と成長が認められた。委員会活動や学校行事も出来る範囲で実施し、改めてクラブ活動や学校行事を通して、生徒達に達成感や協調の大切さを実感させることができた。	A	中央委員会を中心に、委員会活動の充実を促す。クラブ活動についても感染対策を徹底し、拡充を図る。
			「総合的な学習(CA)」の計画的な実施と、内容の充実を図った。文化祭と卒業公演を発表の場として、来校者を保護者限定で行い、発表の中で仲間との協調性を養うと共に、プレゼンテーション能力などを身に付けることができた。	B	開校以来の伝統を守ると共に、見直しを含めより充実した内容になるよう努める。
		コロナ禍で大きな声を出せない中での挨拶運動(オアシス運動)や頭髪服装指導を通し、端正な身なりと明るい挨拶ができる生徒を増やすよう努めた。いじめについては生活アンケートを実施し、担任との面談によって防止に努めた。また、薬物乱用防止、サイバー対策、性教育、肝臓移植、アンガーマネジメントなど、授業や講演会を随時実施し、非行防止や心の教育にも努めた。	B	コロナ禍で挨拶(声を出す)をする習慣が薄れてしまったので改善していく。また、乗車マナーなどの更なる向上を図る。生徒観察について、マスク越しでお互いの表情が読み取れないので細心の注意を払う。いじめについては教職員、生徒共に再認識し、定期的に注意喚起を促す。携帯電話の使用や管理の方法を見直ししていく。	
2	学校としての組織的対応	中高連携	小中高の連携を強化するため定期的(年5回)に会議を開き、意見交換をすることができた。	B	小中高の連絡会議は実施することが出来た。さらなる充実を図る。コロナが落ち着いてくれば、小中の生徒による交流会を再開していく。
		保護者との連携	保護者会(年3回)、保護者面談(年1回)実施。年度当初の保護者会で学年運営計画を説明し、理解と協力を求めた。また、HPやスタディサプリ連絡帳で連絡事項の徹底を図った。	A	保護者への連絡ツールを変更するが、昨年同様HPならびにスタディサプリ for TEACHERS を活用し、生徒・保護者との連絡体制を確立させる。また、家庭に必要な情報を届け、学校の取り組みについての理解を図る。
		教育活動の配信	HPの「What's New(不定期)」や各学年で定期的発行する「学年通信(6~7号)」で、学校行事やクラブ・委員会活動の様子など、学校の様々な活動を保護者に伝えることができた。また、コロナ感染による学級閉鎖や学年閉鎖の情報も素早く報じることができた。	B	道徳活動や命の大切さなどの講演を行っているが、保護者に学校の心の教育に関する配信が不十分であった。来年度は、保護者への報告と活動の充実、保護者の参加を促していく。
		学習環境の美化と整備	wifi環境が一部の教室のみだったが全館に整備された。また、各教室のプロジェクターを一新し、より見やすいものに変えることができた。教員と生徒が一体となって学習環境の整備、改善につ努めてきた。特に教室の整理・整頓・整列の可視化を図った。	A	次年度は、音楽室や生徒ホールのプロジェクターや音響設備を整備する予定である。日々の生活の中で3S運動(整理・清掃・整頓)が実践できるように、日常生活のあらゆる場面について再度見直しを進める。
3	教職員人材育成	授業アンケート・学校アンケートの実施	生徒による授業アンケートを年1回、生徒と保護者による学校アンケートを年2回実施した。授業アンケートについては、教員一人ひとりに集計結果を示し、教員が明らかとなった課題を共有し、各教科指導に反映させるなど、自らの指導改善に役立てた。学校アンケートについては、2回の変化を検証し全教員で共有した。	A	次年度も各教員の指導力向上に向けて、授業観察や研究授業を実施し、授業力の向上を図る。また、保護者にきちんとフィードバックをする。
		目標設定シートと評価	全教員が「年度目標設定シート」を作成し、自ら取り組むべき課題を明らかにし、年度末には課題の達成度を各自で評価した。今後、分掌評価、学校評価へ結び付けている。全職員との業務面談と授業観察を実施することができた。	B	管理職による業務面談を継続する。また、改善点等を共有する。
		職員研修の実施	年間を通じ定期的に職員研修を行った。研修は、外部講師または校内担当者に依頼し、「進路指導」「生徒指導」「人権教育」「教務」「国際教育」「防災」「コンプライアンス」「生徒募集」「ICT」など、内容も多岐に及んだ。また、オンラインによる研修に多くの教職員が利用した。	A	年間を通じてより計画的な研修を実施し、資質向上に努める。特に生徒の多様化する問題に対応できるよう教職員の意識を高める。また、教科指導の強化が出来るように教科長主導で、研究研修を行う。

## 令和4年度 西武学園文理中学校学校関係者評価

<b>目指す学校像</b>	地球規模の視点で自ら問題を発見し、解決できる生徒の育成	凡例	A そう思う
<b>重点目標</b>	グローバルな視野と21世紀型スキルを培うために、学校教育活動全般を通じて①総合的な言語力の修得、②異文化理解の体得、③日本の伝統文化の理解、以上の三点について特に留意してその育成を図る。特に、日常生活面における指導の徹底を図り、自学自習の習慣の強化、情操の向上等により社会から信頼される人格の陶冶を目指す。		B どちらかといえばそう思う
			C どちらかといえばそう思わない
			D そう思わない

評価項目	学校関係者評価	次年度への課題と改善策	意見・要望など			
<b>総合的評価</b>	<p>(1) 学校の雰囲気・校風がよい</p> <p>(2) 学校への交通の便がよい</p> <p>(3) 校舎・施設は清潔で、安全への配慮がとれている</p> <p>(4) 図書室が充実している</p> <p>(5) いじめなどの問題が少なくよい</p> <p>(6) 学校行事が充実している</p> <p>(7) 制服がよい</p> <p>(8) 納得できる学費である</p>		<p>(1)現状を大切に、更に改善を図る。</p> <p>(2)生徒の利用時間や方面を細かく調査し、限られた台数の中で効率を上げられるよう努力する。</p> <p>(3)計画的な改装と、安全性を保障していきたい。</p> <p>(4)生徒教員のリクエストを反映させていきたい。</p> <p>(5)問題発生ゼロを目指して努力する。</p> <p>(6)実施の可能性を模索する。</p> <p>(7)学校指定用品の見直しを図る。</p> <p>(8)諸費用の削減について検討を進める。</p>	<p>「楽しく通えている」「日、時間により、バスの本数を増やして欲しい」「バスを回数券ではなく、定期にして欲しい」「ロッカーの整備。教材が多いので、使い勝手が悪いそうです」「図書室を利用する回数が増え、嬉しく思っています」「テニスコートを整備してほしいです」「IUの勉強環境改善を宜しくお願いします。騒がしいそうです」「給食を改善してただけると嬉しい」「教科書やタブレットで中身がかなり重いので、せめて、カバン本体を軽くする必要が有ると思います」「このようなアンケートを実施することに好感が持てます」</p>		
	<b>学習指導評価</b>	<p>(1) 学習指導・教科学習が充実している</p> <p>(2) 基礎学力の定着がきちんと行っている</p> <p>(3) 成績上位者をさらに伸ばしてくれる</p> <p>(4) 成績下位者の面倒をよくみってくれる</p> <p>(5) 体験学習が充実している</p> <p>(6) 英検・漢検の指導が充実している</p> <p>(7) 国際理解教育が充実している</p> <p>(8) 進学指導が充実している</p> <p>(9) 心の教育が充実している</p>		<p>(1)さらなる充実に向けて努力する。</p> <p>(2)一層の改善を目指して取り組んでいく。</p> <p>(3)ゼミ等の更なる充実を図る。</p> <p>(4)火・金の放課後補習の内容の改善と、クラブ活動との両立を図りながら他曜日での実施日を検討する。</p> <p>(5)コロナ禍でどのようなことが出来るか模索する。</p> <p>(6)ALTIによる放課後のゼミの充実を図る。数値目標を掲げ、全校的に検定への意欲を高める。</p> <p>(7)行事(海外研修旅行や語学研修、短期留学など)や授業内容(GCPやALTI)を再検討する。</p> <p>(8)キャリア教育等の見直しを検討する。</p> <p>(9)道徳の授業内容の見直しと外部講師の充実を図る。</p>	<p>「S限テストで学力不足の生徒が分かると思いますので、学力定着のための補講を充実していただくと落ちこぼれないかと思います」「コロナで中止になっている体験学習等を再開してほしい」「英検・漢検対策をもっと充実してほしい」「出来ない部分をもう少し見てほしい。任意ではなく強制してほしい」「復習や宿題をなかなかしないので、そのチェックを少し厳しくしていただきたいです」</p>	
		<b>教員評価</b>	<p>(1) 熱心で明るく対応する先生が多い</p> <p>(2) 公平で頼りがいのある先生が多い</p> <p>(3) 質問や相談に、的確に対応してくれる先生が多い</p> <p>(4) 教科指導力がある先生が多い</p> <p>(5) 生活指導をしっかりやってくれる先生が多い</p> <p>(6) 学級運営が上手な先生が多い</p> <p>(7) カウンセリングの体制が充実している</p> <p>(8) 保健室の対応に満足している</p>		<p>(1)現状をさらに推し進めていく。</p> <p>(2)生徒一人一人に誠実に向き合うようにする。</p> <p>(3)生徒からの質問や相談がしやすいように、教員から声かけができるよう意識させる。</p> <p>(4)授業観察や研究授業を増やし指導を強化する。</p> <p>(5)教員間での指導の差がでないように、研修等を通して共有と指導方法の改善を図る。</p> <p>(6)学年主任を中心に研修をさせる。</p> <p>(7)カウンセリング室と保健室と学年の連携を図る。</p> <p>(8)生徒や保護者への対応をより丁寧に行うようにする。</p>	<p>「先生方の指導、優しさに助けてもらいながら学校生活を送れています。心から感謝しております」「自分からは言い出せない子供に対して、カウンセリングを案内いただけてもっと良いと思います」「掃除が行き届いていない」「学校の話をしなくなる年頃でもありますし、学校からの配布物が親まで届かないことも多々あるので、このようなオンラインでの連絡は有り難いです」</p>

令和4年度 西武学園文理高等学校 学校自己評価表

目指す学校像	地球規模の視点で自ら問題を発見し、解決できる生徒の育成	達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
重点目標	○進学指導体制の整備 ○教科指導力の向上 ○生活指導・教科外活動・広報活動の充実		B	おおむね達成 (6割以上)
			C	変化の兆し (4割以上)
			D	不十分 (4割未満)

年度課題			年度評価		次年度への課題と改善策
No.	課題	具体的目標	課題項目の達成状況	達成度	
1	教育活動	学力・学習意欲の向上	探究学習において、生徒自身が興味・関心のあるテーマを設定し、探究のサイクルを回しながら協働的な取組を行い、問題発見力・解決力を育成した。1・2年生の探究発表会を狭山市民会館で行い、狭山市長や市役所の方、西武文理大学の方から好評を博するとともに、一部の活動を社会人と繋げることができた。2年生チームが中高生探究コンテスト2023において、全国約1300応募の中でファイナリストの10組に選出された。	A	3年生は2年間の探究学習を行い、そこで得られた成果や培った力を、自身のキャリアを見据えた大学進学につなげていく取組へと繋げる。1・2年生は全生徒にChromebookをもたせているので、探究活動を含め、授業以外でも活用する機会を増やす。
			管理職による授業観察を行い、授業改善への取組を継続している。教科による研究授業を実施し、教科会において授業内容・指導方法を検討し、改善した。また教科横断型授業も取り入れ、言語能力や情報活用能力などの育成を行った。教科長会での情報共有を積極的に行い、教科間の連携を図った。	B	各教科または教科を越えての、新たな学力を育成するための指導方法についての研究推進と、大学入試問題研究による進路指導の更なる充実を図る。
			Chromebook導入3年目となり、オンライン授業や課題の配信・提出、小テストの実施、文理探究での協働的な活動など、コロナ禍で始まった生徒・教員の活動を、さらに発展させることができた。躍動館のWi-Fi整備が完了し、高3までWi-Fi利用が可能となり、様々な授業展開ができた。	A	IIYOU館のWi-Fi設置で、生徒が日常的に学習する場へのWi-Fi環境の提供はサイエンスホールとIIYOU館を残してほぼ完了した。
		学習サポートセンターを定期考査前・考査中、またクラブ活動終了後に多くの生徒が利用し、自学自習の習慣が身に付いた生徒が増えている。また本校卒業生がチューターを務めるなど、生徒の実情に合わせたより細やかな指導が行われている。ベア館の試験前以外の利用者が非常に少なかった。	B	学習サポートセンターと各教科担当、担任との連携を強め、学内で学習時間が完了できるよう、また退会者を出さないように学習環境作りを促進する。ベア館の利用者の増加を図る。	
		人間形成	「自ら課題と向き合い、主体的に問題を解決する力」や「人間として大切な真、善、美の心」を育てる学校行事（中高別体育祭・文化祭・高2国内研修旅行・高1・2探究発表会など）をコロナ感染防止対策を講じながら実施することができた。	B	学校行事等を5類への移行により、コロナ禍前の活動と同様に生徒が主体的に実践的に取り組めるよう、計画を立案する。
2	学校としての組織的対応	企画運営会議の活用	週1回の企画運営会議では学年・分掌からの協議課題を扱い、企画案や問題点をスピード感をもって対処すべく会を実施してきた。またその議事録を速やかに学内に公開し情報共有がスムーズになった。	A	報告・連絡・相談を行う場であると同時に諸問題の解決に向けて決定していく場であり、教員の意見を広く求める職員会議や決定機関の管理職会議とはその性質を異にすることを周知する。
		進路指導の充実	模擬試験の分析会を通じて、生徒一人ひとりの今後のあり方を考えるとともに、教科担当として何に力を注ぐべきかを考え、日頃の学習指導に活かした。進路指導計画の作成で、全教員が共通認識のもとに進路指導を実践できるようになった。3学年全体での成績会議では、担任・教科担当・クラブ顧問の目で個々の生徒の現状を把握し、日頃の生徒の努力に対し声掛けができるようにした。	B	1・2年生での英語・数学の習熟度別授業の効果を検証し、3学年での展開に活かして、学力向上を図る。緩やかな文理分けや自由選択科目制の導入を、国立大学への受験者増へ繋げる取り組みをする。
		学校改革	育てたい生徒像とともに、3つのポリシーに根ざした本校が目指す姿を共有し、日々の活動に生かした。高校全体のグローバル化に向け、英語科で蓄積した知見を普通科でも応用し、GCPを継続しより良いものへと改善した。多様な価値観をもつ仲間と協働できる人材を育成するために、内進生と高入生の混合クラスを継続し、探究をより深化させた。文理中学で先行している英語と数学においては分割授業授業を取り入れ、習熟度別授業ができる体制を整え維持させた。早い段階での文理コース分けを改め、幅広い学力を育成するための制度設計を行い、2年目の新教育課程となった。	B	文理高校の教育で育成できる「Global」「Hospitality」「Creative」を明確にし、この教育を日々の活動で、どのように実践していくのかを検討し、実行しながら改善点を見つけていく。習熟度別授業を検証・進化させるとともに、総合型選抜と一般入試を両立させる指導を充実させる。
		教育活動の対外的報告	1・2年生の探究活動の成果発表会を11月に狭山市民会館で行うことができた。文化祭や体育祭、保護者会、進路講演会、卒業式など、オンラインでのライブ配信や録画配信など状況に応じて対応することができた。対外的な広報活動としては主にホームページを利用した。学校説明会（学内、学外）等もライブ配信やオンデマンドでの動画配信を行いながら、募集活動を実施した。	B	本校のHPでの発信だけではなく、日頃の教育活動の成果を発表できるコンテストなどにも積極的に参加し、様々な媒体で紹介される機会を増やす。また地域連携の場を設定し、地域の受験生やその保護者に注目してもらい、文理の活動を広く浸透させていく。
3	教職員人材育成	業務面談の実施	昨年度導入した人事評価制度の「目標設定シート」作成、校長・教頭面談、中間報告、年度末学年主任面談を行い、自己点検・自己評価の改善を図り、自ら課題を明らかにした。年度末には課題の達成度（数値目標）を各自で評価し、学年・分掌業務、教科指導の改善などに結びつけた。	B	学校や分掌長の目標実現のために、教員各自が数値目標を設定し、具体的な施策を示して、教員の自己点検・自己評価の分析を促す体制を整える。
		教員研修	教員の授業力や受験指導力向上のために予算を確保し、予備校等の受講講座を各教科に指定して受講させ、受講後の教科・科目担当教員への情報発信・共有を義務づけし実践した。またICTに精通した教員がChromebookの活用方法などを、学内に積極的に発信した。	A	最新の受験情報や入試問題の傾向を収集・発信し、教員の受験及び教科指導力の向上に役立つ外部の研修を積極的に活用していく。また教員内でのICT研修も回数をさらに増やしていく。
		授業アンケート	7月と12月の2回授業アンケートを実施し、生徒の学力向上につながる因子を捉え、何が生徒の学力向上に影響を及ぼしているかを分析した。アンケート結果をもとに、生徒に対して教員の受け止めと改善策をクラス内に掲示し、授業改善に役立てた。また教科内で情報を共有し、授業改善へと繋げた。	A	授業アンケートをもとに個人だけではなく教科の改善点も洗い出し、教科として改善へ取り組み、学力向上を実感できる授業展開へと発展させる。

令和4年度 西武学園文理高等学校 学校関係者評価

目指す学校像	地球規模の視点で自ら問題を発見し、解決できる生徒の育成	凡例	A そう思う
重点目標	○進学指導体制の整備 ○教科指導力の向上 ○生活指導・教科外活動・広報活動の充実		B どちらかといえばそう思う
			C どちらかといえばそう思わない
			D そう思わない

評価項目	学校関係者評価	次年度への課題と改善策	意見・要望など
総合的評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・制服の値上がりもあり、特に制服・学費が高いとの意見が目立つ。女子スラックスを導入したが、違和感なく日常生活を過ごしている。需要数が少ないため価格も高くなっている。</li> <li>・3年度からの遅刻・欠席連絡のメールへの変更により、4年度は早退を含めたものに改善し、利便性を高めることができた。</li> <li>・保護者会や面談の実施回数が適切でないとのご意見をいただいている。より開かれた学校を目指し、来校回数を増やせるよう、北斗星の会と相談しながら行事等を行って決定する。</li> <li>・学校行事については、コロナウイルス感染対策を講じながら、中高別の体育祭や対面での文化祭、12月に国内研修旅行も実施できた。保護者の来校も含め、対面での良さを再認識しながらも、オンラインの方がより適しているかなど、検討する必要がある。</li> <li>・本館と躍動館のWi-Fi導入は完了し、オンライン授業への対応もスムーズに行えるようになった。令和5年度にはサイエンスホールとIIYOU館への設置工事を行う予定である。</li> <li>・令和4年度は北斗館のトイレ改修を行う予定であったが、実施できなかった。より清潔で安全な施設を提供する必要がある。</li> </ul>	<p>『利用しやすいスクールバスの設定』 『クラブ顧問の先生の年功序列体制を変えてほしい。古い考え方は排除して、勝てる戦略、柔軟な対応の出来る指導が必要。』 『トイレ改修、手洗い用の水道設置』</p>
学習指導評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル教育や、昨年に続き英検指導でやや評価が低くなった。放課後に、希望者への二次試験（面接）対策を行っているが、通年での英検ゼミなどの検討が必要である。</li> <li>・サポートセンターを利用する生徒の満足度が、あまり高くない。自学自習のための静かな環境作りや、チューターに対する満足度を高める必要がある。</li> <li>・進路指導部、教務部、学力向上委員会の有機的な連携、英検等の外部検定対策、文理探究の充実など、更なる学力の向上や総合型選抜、学校推薦型選抜への対応など、多様な生徒のニーズに合った教育活動、進路指導を展開していく。</li> </ul>	<p>『I・I・YOU館の朝自習開放をテスト前だけでも解放して欲しい。』 『特選クラスとの差が大きいように感じられる。先生の雑談が多く、結果時間が足りず急いで授業を進めるので授業に集中して欲しい。』 『テスト一週間前になってもテスト範囲まで終わらなかつたり、無理矢理終わらしたりする事がある。分からない事を聞けるように余裕を持って終わらせてほしい』 『教えてる先生が違っていると、クラスによりプリントが渡されないことがある。不利のないようにお願いしたい。』</p>
教員評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導力があるの『そう思う』が昨年度以上に低下した。習熟度別授業やゼミの充実、模試分析会からの授業へのフィードバック、共通テストや大学別入試問題研究の教科をあげての取組、管理職による授業観察などで、生徒が実感できる形で満足度を上げていく。</li> <li>・校内外での服装や公共機関でのマナー、自転車乗車時のルールの遵守など、苦情の電話をいただくことがある。学校全体の取り組みとして、ホスピタリティー精神の涵養が必要である。</li> <li>・日常における授業担当者やクラブ顧問の生徒への積極的な声かけ、担任の面談などを通して信頼関係を構築して生徒の安心・安全を担保し、生徒が主体的に行動・学習できる環境をつくる。</li> </ul>	<p>『先生方の指導力向上を期待しています。子ども達の目先の楽しさを充実させるような行事を考えるのではなく、将来社会に役立つ人間に育てるために、今すべきこと、そこに焦点をあてて教育をしていただきたいです。目先の派手なパフォーマンスは、必要ありません。』</p>